

中山間地域の耕作放棄地を救え 杜仲の森で地域も人も元気モリモリ

【活動グループの紹介】

神奈川県立吉田島高等学校は明治40年に創立され、再編や改称を経て、平成29年に現校名としてスタートしました。都市農業科・食品加工科・環境緑地科・生活科学科の4つの学科があり、県内で唯一の農業科と家庭科を併置した専門学科高校です。

今回、みどり戦略学生チャレンジに参加するのは、環境緑地科に所属する1年生21名です。担当する石塚先生のご指導のもと、様々な実習を通して、農林業や環境に対する知識や技術を日々深めています。

神奈川県立吉田島高等学校 | 神奈川県教育委員会 ←学校の詳細はこちらから！

【取組の紹介】

今回、取組の主体となる環境緑地科の1年生は、教科「農業と環境」の中で、経営が成り立つ農業の条件として、都市近郊に位置することや、広くて平坦な土地であることが重要であると学びました。しかし、山間部が多い日本では、そのような土地は非常に限られており、耕作放棄地も多く存在しているという現状についても理解を深めました。

今後の持続可能な生産システムの構築に向けて、中山間地域の有効活用が必要不可欠なことから、耕作放棄地でのトチュウの早期成林技術、アグロフォレストリーの視点を取り入れた、針葉樹との混植育林技術の開発に取り組んでいます。

杜仲茶を販売する県内の民間企業とも共同研究を行うなど、取組が広がりつつあります。



Q1 チーム構成は？



環境緑地科に所属する1年生21名で構成されている。1年次のカリキュラムである「農業と環境」の授業の一環で取組を行っている。

Q2 楽しい授業はある？



手刈りで天日干し！
皆で新米を食べます

米づくり。
田植えから、稲刈りまでの流れを授業で学んだ。
普通科高校ではできない貴重な体験ができた。
稲刈りはちょうど先週行ったところ。

取材を終えて

9月下旬、神奈川県開成町にある神奈川県立吉田島高等学校を訪問しました。広大な敷地の中に農場のほか、複数の実習棟や温室等の設備も充実していました。さらに、敷地外に演習林や果樹園もあるとのことで、生徒さん自身が体を動かしながら学べる環境が整っていると感じました。

当日は、環境緑地科1年生とともに「農業と環境」の授業に参加させていただき、併せて意見交換の時間も設けていただきました。入学からまだ半年足らずということもあり、授業全体を通しては物静かな印象を受けましたが、興味のある話題に触れたときや集合写真を撮る際には、時折嬉しそうな表情を見せていたのが印象的でした。

もう少し時間があったらというのが本音ではありますが、限られた時間の中で取材にご協力いただきました先生方・生徒の皆さんありがとうございました。生徒の皆さんには今回のみどり戦略学生チャレンジに限らず、色々な事に挑戦し3年間の高校生活を楽しんでもらえたら嬉しいです！

